

# 高齢者の内面的性質の要因と 活動意向に及ぼす影響に関する研究

鈴木 雄<sup>1</sup>・日野 智<sup>2</sup>・北澤 匠<sup>3</sup>

<sup>1</sup>正会員 秋田大学技術職員 大学院理工学研究科 (〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1)  
E-mail: yusuzuki@gipc.akita-u.ac.jp

<sup>2</sup>正会員 秋田大学准教授 大学院理工学研究科 (〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1)  
E-mail: hino@gipc.akita-u.ac.jp

<sup>3</sup>学生員 秋田大学工学部土木環境工学コース (〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1)  
E-mail: s7016816@s.akita-u.ac.jp

本研究では、高齢者の内面的性質に着目した。内面的性質とは、「人と関わることを避ける」「物事の諦めにより活動意欲がない」「自分から行動できない」「周囲に合わせられない頑固な性格」「自分ひとりで解決しようとする性格」など、高齢者の活動意欲を低下させる要因である。これらの内面的性質を構成する属性や、内面的性質が活動欲求を低下させる構造、内面的性質の有無別の必要施策などについて分析を行った。共分散構造モデル作成の結果、「諦めの強さ」が「人に頼れない意識の強さ」や「自発的行動の無さ」に繋がり、さらにそこから「人と関わる意識の少なさ」、「活動への希望の少なさ」に繋がる関係が示された。また、「人見知りの強さ」が「自発的行動の無さ」へと繋がる関係や、「頑固さの強さ」が直接「活動への希望の少なさ」へ繋がる関係も示された。

**Key Words :** *consciousness survey and analysis, elderly people, personality evaluation*

## 1. はじめに

高齢者の生きがいの創出のためには、交流や会話の機会が重要となる。内閣府の「平成29年高齢者の健康に関する調査結果」<sup>1)</sup>では、家族や友人との会話の頻度が週に1回以下の高齢者は、単身世帯男性で32.0%、単身世帯女性で13.2%いるとしている。また、東京都健康長寿医療センター<sup>2)</sup>の調査では、同居家族以外とのコミュニケーションが週1回未満である社会的孤立と、外出頻度が2～3日に1回未満である閉じこもりの両方の条件に当てはまる場合、両方に当てはまらない場合と比較して6年後の死亡率が2.2倍になることを示している。交流や会話が無いことで、医学的な影響もみられる。

第一生命経済研究所の「高齢者の外出の現状とその意向」<sup>3)</sup>では、高齢者が行って楽しいと感じる場所について「会合・サークル活動・学習するための施設」と回答したのが、「65～69歳」で68.0%、「70～74歳」で62.8%、「75歳以上」で44.0%としている。これらの活動場所において楽しいと感じていることがわかる。その一方で、令和元年版高齢社会白書<sup>4)</sup>では、60歳以上の高齢者が実際に現在行っている社会的な活動について、「特に活動

はしていない」と回答した人が60.1%となっている。また、全国老人クラブ連合会による老人クラブ実態調査報告書<sup>5)</sup>では、高齢者の老人クラブへの加入率は18.4%であり、加入者の参加率が4割未満の老人クラブが23.8%存在することを示している。

以上のことから、高齢者は、会合やサークル活動などは楽しいと感じながらも、参加自体は多くない状況がみられる。高齢者に活動の機会を多く提供しようとも、高齢者自体に参加意向が無いのでは意味がない。本研究では、これらの活動意向が低い状況について、高齢者の内面的性質によるものと考えた。ここで内面的性質とは、「人と関わることを避ける」「物事の諦めにより活動意欲がない」「自分から行動できない」「周囲に合わせられない頑固な性格」「自分ひとりで解決しようとする性格」など、高齢者の活動意欲を低下させる心理的な要因と定義する。

本研究では、高齢者の内面的性質の要因と、内面的な性質が活動意向に与える影響について分析を行うことを目的とする。

高齢者の精神面に着目した研究は、伊藤<sup>6)</sup>らの独居高齢者の生活行動と孤独感の関係を分析したものや、清水

ら<sup>7)</sup>の高齢者の地域社会との関わりと孤立感の関係について分析したもの、小林ら<sup>8)</sup>の孤立高齢者におけるソーシャルサポートの利用可能性と心理的健康に着目したものの、山縣ら<sup>9)</sup>の高齢者における「閉じこもり」に関連する心理的・社会的要因について検討を行ったもの、鈴木ら<sup>10)</sup>の高齢者の生活における「慣れ」や「諦め」について分析を行ったものなどがある。これらの中で、高齢者の内面的性質の全体像をとらえたものや、それらの要因について詳しく分析を行ったものはみられない。

## 2. 高齢者の内面的性質に関する意識調査

### (1) 意識調査の概要

本研究では、高齢者の内面的性質の把握のために、秋田県秋田市の65歳以上の住民を対象に意識調査を実施した。調査対象地区は、八橋地区、土崎港北地区、牛島西地区としている。表-1に意識調査の概要を示す。調査票は、高齢者の有無に関わらず、対象地区の住民に配布している。65歳以上の高齢者が居住していない世帯は対象外となるため、調査票を廃棄してもらっている。意識調査では、設定した内面的性質の25項目や、各種活動の経歴、活動参加意向などについて質問を行っている。回収票数は全体で141となっている。高齢者が居住していない世帯にも調査票の配布を行っているため、回収率は低くなっている。

### (2) 高齢者の内面的性質の抽出

本研究では、高齢者の内面的性質について分析を行っている。はじめに、基本的な特性として、図-1に各地区の年齢構成について示す。八橋地区の年齢構成が比較的若く、「65-69歳」が46.2%となっている。各地区におい

表-1 意識調査の概要

調査方法	投函配布・郵送回収方式		
調査実施日	令和元年12月12日		
調査対象	秋田市内在住の65歳以上の高齢者		
調査地域 回収状況	配布地域	65歳以上人口 (高齢化率)	回収/配布 (回収率)
	八橋	2,247(24.8%)	26/400(6.5%)
	土崎港北	1,919(34.0%)	54/600(9.0%)
	牛島西	1,675(31.2%)	60/600(10.0%)
	合計		141/1600(8.8%)
調査内容	・個人属性		
	・内面的性質に関する25項目		
	・各種活動の頻度や活動歴		
	・地域の取組みに対する参加状況や参加意向		
	・各種活動施策への意識		
・活動参加への必要条件			

て交通環境や居住者の属性が異なることが予想される。地区別の分析を行った場合、これらの属性を抱えている割合を反映することになる。本研究では、交通手段や健康状態などの属性ごとの内面的性質の把握を行う。そのため、地区別の分析は行わない。

次に、高齢者の内面的性質を抽出を行う。図-2に高齢者の内面的性質の抽出フローを示す。本研究では、秋田大学計画系研究室の学生5名により、ブレインストーミングを行った。その結果、135項目の内面的性質の選定を行っている。さらにそこから、取捨選択や統合を行い、

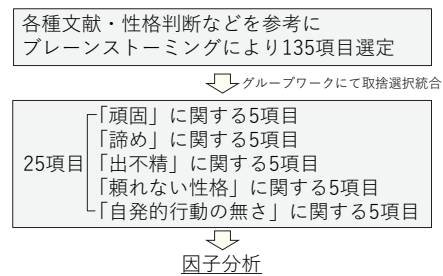
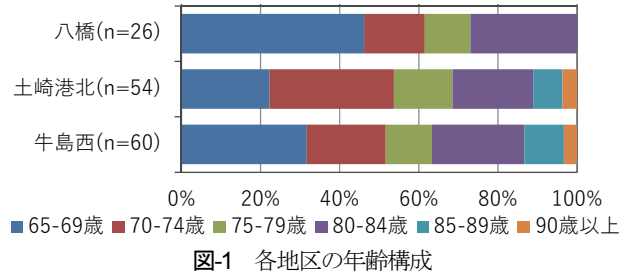


図-2 高齢者の内面的性質の抽出フロー

表-2 内面的性質の質問項目と該当率

内面的性質の質問項目	該当率
(1) 長年同じ環境で特定の人と関わりが多い	14.5%
(2) 趣味や好きなものは気軽にやるよりもとことん極めたいと思う	43.5%
(3) 自分の人生はどんな些細なことでも自分で決めたいと思う	21.7%
(4) 家族や友人知人の意見や忠告を素直に受け入れていると思う	84.1%
(5) 「でも」や「いや」、「いえ」が口癖になっている	79.7%
(6) 自分の人生はこれからもっと楽しくなると思う	34.1%
(7) 「自分なんて」と引込み思案になることはほとんどない	55.1%
(8) 何事にもやる気は満ち溢れている方だと思う	55.1%
(9) 何事も頑張ったら何とかかなと思う	71.7%
(10) 何事も楽な選択肢を選びがちになっていると思う	46.4%
(11) 外出は、買い物や通院など最低限度以外ではしたくないと思う	60.1%
(12) 人が多いところにはなるべく出かけたくないと思う	42.8%
(13) 外出先で知り合いになるべく会いたくないと思う	69.6%
(14) ひとりである時間に幸せを感じる	52.9%
(15) 出かけるより家で過ごす時間の方が楽しい	62.3%
(16) 自分の手に負えないことでも「自分で何とかしなければ」と思う	42.0%
(17) 相手によく気を遣いすぎてしまう	34.1%
(18) 相手に頼るくらいなら、やらない方を選ぶ	37.0%
(19) 何事も完璧にものごとを行いたいと思う	40.6%
(20) 人に相談して意見を聞くことはしない	65.2%
(21) 交流や挨拶は基本的に自分から誘ったり行ったりする方だと思う	45.7%
(22) 自分は社交的な性格だと思う	42.0%
(23) 電話はかかってくるより自分からかける方が多い	30.4%
(24) 周囲の人の意見に合わせる事が多い	70.3%
(25) 自分で判断する機会が少ない	73.9%

最終的には、「頑固」「諦め」「出不精」「頼れない性格」「自発的行動の無さ」に関わると考えられる5つの要因について、それぞれ5項目の設定を行っている。

次に、表-2にこれらの高齢者の内面的性質に関して設定した項目と、各項目への該当率を示す。表-2中の(1)~(5)が「頑固」、(6)~(10)が「諦め」、(11)~(15)が「出不精」、(16)~(20)が「頼れない性格」、(21)~(25)が「自発的行動の無さ」となっている。該当率は各設問について「当てはまる」「やや当てはまる」と回答された割合である。該当率では「家族や友人知人の意見や忠告を素直に受け入れていると思う」の84.1%、「「でも」や「いや」、「いえ」が口癖になっている」の79.7%などで高い値となっている。

高齢者の内面的性質を解釈するために、これらの設定した項目について因子分析を行った。因子の単純構造化を行うために、プロマックス法による斜交回転を用いている。なお、因子分析で用いた設問は、内面的性質として悪影響があるものを4、悪影響がないものを1とした4段階の評価を用いている。そのため、表-2中で用いた軸を反転している設問も存在する。表-3に、因子分析の結果として因子負荷量を示す。固有値以上の6因子の抽出を行った。因子負荷量が0.4以上のまとまりについて、それぞれ解釈を行ったところ、「I:人と関わる意識の弱さ」、「II:諦めの強さ」、「III:自発的行動の無さ」、「IV:頑固さの強さ」、「V:自分で解決する意識の強さ」、「VI:人見知りの強さ」の6つの要因からなることを明らかとした。また、各要因内の得点について信頼係数 $\alpha$ を計算したところ、すべてで0.80を超えた。

表-3 高齢者の内面的性質に関する因子分析

設問		因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	
I	(11) 外出は最低限に	0.74	-0.04	-0.03	-0.09	-0.06	-0.01	
	(12) 人が多いところは避けたい	0.61	0.02	0.04	0.01	0.05	0.09	
	(15) 出かけるよりも家にいたい	0.60	-0.09	0.11	-0.03	-0.02	0.00	
	(18) 頼るくらいならやらない	0.51	0.03	0.08	0.11	0.25	-0.09	
	(20) 人の意見を聞かない	0.49	0.27	-0.30	0.01	0.06	0.05	
II	(9) 頑張ってもどうにもならない	-0.13	0.80	0.09	-0.01	0.02	-0.04	
	(8) やる気に満ち溢れていない	-0.05	0.78	0.07	0.03	-0.01	0.02	
	(6) これからの人生は楽しくならない	0.09	0.57	-0.06	0.09	0.14	-0.06	
	(7) 引っ込み思案になる	0.24	0.34	0.01	-0.02	-0.15	0.08	
III	(22) 社交的ではない	0.14	0.05	0.74	0.00	0.05	0.00	
	(21) 自分から交流はしない	0.12	0.15	0.68	0.01	0.09	-0.07	
	(23) 自分から電話をしない	-0.20	-0.01	0.57	-0.05	-0.01	0.03	
	(25) 自分で判断する機会が少ない	0.15	-0.11	0.40	0.22	-0.12	0.05	
IV	(24) 周囲の意見に合わせない	0.01	0.06	0.01	1.02	-0.10	-0.01	
	(19) 完璧主義	0.01	0.10	0.10	-0.10	0.88	0.08	
V	(16) 自分でしなければと思う	0.25	-0.12	-0.20	-0.01	0.45	-0.05	
	(13) 外出先で知り合いに会いたくない	0.00	-0.02	-0.01	0.02	0.05	1.01	
寄与率		7.16%	6.14%	6.11%	13.38%	6.87%	4.23%	
I	人と関わる意識の弱さ						II	諦めの強さ
III	自発的行動の無さ						IV	頑固さの強さ
V	人に頼れない意識の強さ						VI	人見知りの強さ

### 3. 内面的性質の要因と活動意欲低下との関係

#### (1) 内面的性質の要因

本研究では、高齢者の内面的性質の要因について分析を行う。また、内面的性質が活動意欲の低下に与える影響についても分析を行う。

はじめに、表-3の因子分析から得られた内面的性質の各要因について、該当・非該当の分類を行う。本研究では、内面的性質として悪影響があるものを4、悪影響がないものを1とした4段階の評価を用いている。ここでは、各要因内での項目の得点について平均値を算出し、3.0以上の人を該当として扱う。図-3に、各要因の平均点の分布と、内面的性質の判定の結果を示す。

次に、高齢者の内面的性質が活動欲求の低下に与える影響について分析を行うため、各活動への参加希望について明らかとする。表-4に、各活動への参加意欲について、該当する割合を示す。

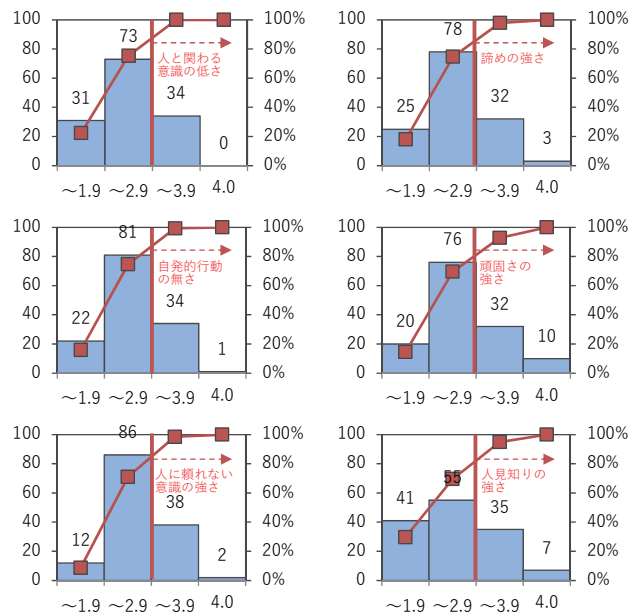


図-3 内面的性質の各得点分布と判定

表-4 各活動への参加意欲

活動	したいと思う
元気に過ごす日を増やすための活動	55.6%
外出するのが楽しくなる活動	54.1%
人と話す機会を増やすための活動	53.5%
新たな友人を作るための活動	37.4%
児童や若者と交流する機会を得るための活動	34.0%
自分の経験を誰かのために生かすための活動	26.9%
人との繋がりを深めるための活動	42.5%
生活のリズムを作るための活動	42.9%
積極的に地域に関わっていくための活動	24.5%
毎日を笑顔で過ごすための活動	53.8%

表-5 各内面的性質の判別分析

説明変数		内面的性質					
		人と関わる意識の少なさ	諦めの強さ	自発的行動のなさ	頑固さの強さ	人に頼れない意識の強さ	人見知りの強さ
性別	1:男性	-0.162	0.081	-0.107	0.449	0.927	-0.380
	0:女性						
年齢	1:前期高齢者	0.058	-0.360	0.052	-0.085	-0.739	-0.835
	0:後期高齢者						
友人との会話頻度	1:週1回以上会話	0.840	1.304	1.341	0.187	0.149	-0.364
	0:週1回未満会話						
近隣住民との会話頻度	1:週1回以上会話	0.346	0.012	0.187	1.113	0.059	0.969
	0:週1回未満会話						
歩行可能距離	1:500m未満	-1.424	-1.218	-0.419	0.802	-0.397	0.205
	0:500m以上						
健康状態	1:良い,普通	0.173	0.350	0.715	0.482	0.603	0.360
	0:悪い						
経済状況	1:良い,普通	-0.335	0.521	0.368	0.266	-0.810	0.801
	0:悪い						
外出頻度	1:週3~5回以上	0.580	0.037	-0.064	0.112	-0.438	0.411
	0:週1~2回未満						
通院頻度	1:月1回以上	-0.938	0.190	-0.286	-0.039	-0.174	-0.060
	0:年数回、全くない						
買い物頻度	1:週1回以上	-0.640	-0.715	-0.766	-1.590	-0.465	-0.932
	0:週1回未満						
趣味頻度	1:週1回以上	-0.780	0.057	-0.565	-0.435	-1.236	1.174
	0:週1回未満						
運動頻度	1:週1回以上	0.258	0.478	0.314	0.840	0.952	-0.578
	0:週1回未満						
地域活動頻度	1:月1回以上	-0.654	-0.894	0.137	1.083	0.968	0.957
	0:年数回、全くない						
車運転	1:自分で運転している	0.778	-0.068	1.166	0.074	0.561	0.802
	0:その他						
公共交通	1:公共交通を利用	0.407	-0.369	0.685	-0.651	1.287	1.374
	0:その他						
1:該当するの重心		-1.123	-0.873	-1.018	-0.246	-0.572	-0.904
0:該当しないの重心		0.419	0.342	0.380	0.597	0.462	0.426
判別率(%)		78.6%	72.8%	74.8%	69.9%	69.9%	79.6%

1%有意    5%有意    10%有意

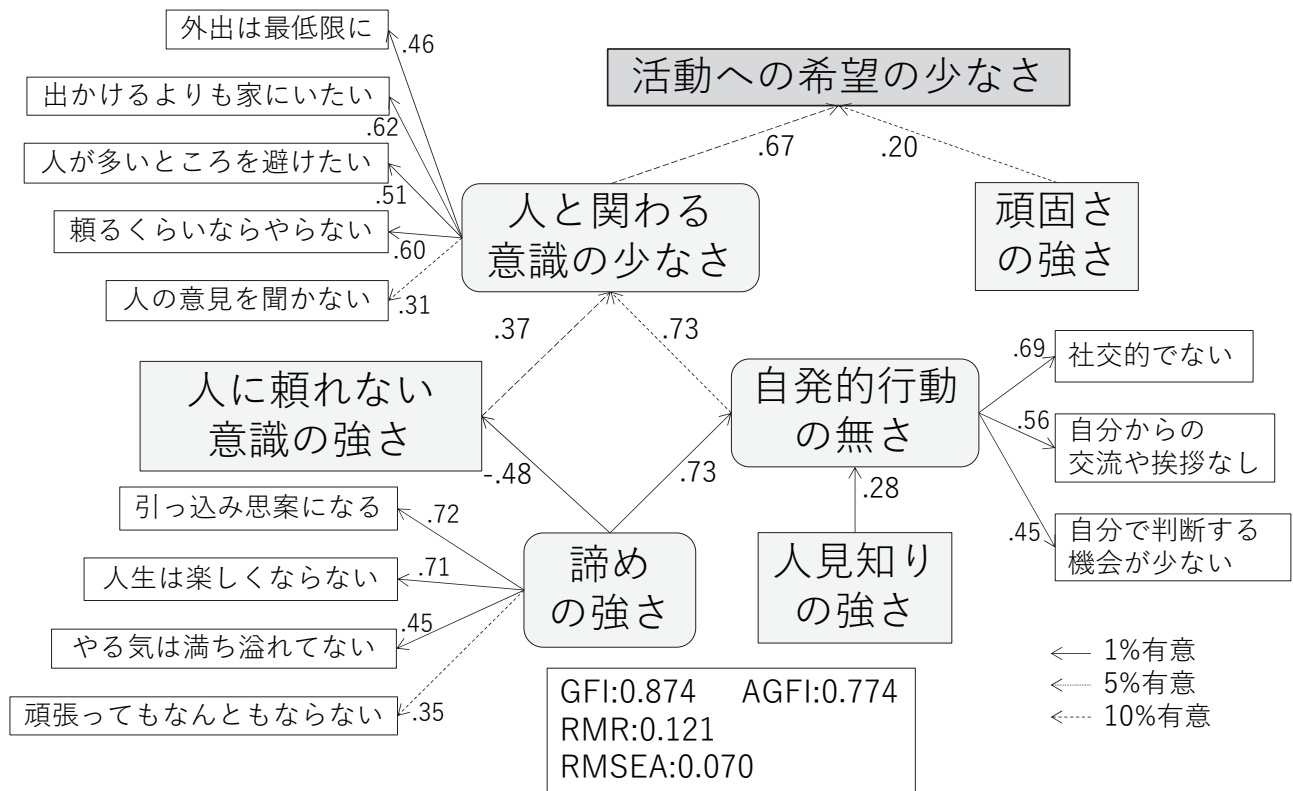


図4 内面的性質と活動希望の少なさとの関係に関する共分散構造モデル

ここで、各内面的性質が構成される属性について分析を行うため、判別分析を行った。表-5に、判別分析の結果を示す。目的変数として各内面的性質に「1：該当する」「0：該当しない」を用いた。説明変数として、性別や年齢、会話の頻度、外出頻度、通院頻度、買い物頻度、地域活動への参加状況、交通手段などの各種属性を用いた。表-5中の、赤塗りが1%の有意水準、青塗りが5%の有意水準、緑塗りが10%の有意水準を示す。例えば、「人見知りの強さ」をみると、「年齢」「近隣住民との会話頻度」「経済状況」「趣味頻度」「地域活動頻度」「公共交通」が10%以上の水準で有意となっている。軸の重心から判断すると、前期高齢者が人見知りの強い方に寄与している。一方で、近隣住民と週1回以上の会話、経済状況が良い、趣味の頻度が週1回以上、地域活動に月1回以上参加、公共交通を利用している人において、人見知りしない方に寄与している。

以上のように、各内面的性質と各種属性との関係について示すことができた。

(2) 内面的性質と活動意欲との関係

各内面的性質と活動意欲との関係について分析を行う。本研究では、高齢者の内面的性質が、各種活動への参加意欲を低下させると考えた。これらの関係について示すために、共分散構造分析を行った。図-4に、作成した共分散構造モデルを示す。「活動への希望の少なさ」に関しては、表-4で示した各活動への参加意欲の10項目で、「したいと思わない」活動数について標準化したものを用いた。また、各観測変数には、内面的性質に悪影響があるものを4、悪影響がないものを1とした4段階の各種評価を用いた。各パスが10%水準以上で有意かつ、GFIがある程度高くなるまで、各パスを探索的に繋ぎモデルの作成を行った。GFIは0.874とそれほど高くはないが、すべてのパスが10%水準以上で有意であり、ある程度説明力のあるモデルの作成ができた。

モデルでは、「諦めの強さ」が「人に頼れない意識の強さ」や「自発的行動の無さ」に繋がり、さらにそこから「人と関わる意識の少なさ」、「活動への希望の少なさ」に繋がる関係が示された。また、「人見知りの強さ」が「自発的行動の無さ」へと繋がる関係や、「頑固さの強さ」が直接「活動への希望の少なさ」へ繋がる関係もみられた。

(3) 内面的性質と活動参加のために必要事項

本研究では、高齢者の内面的性質の該当状況に応じた、活動参加のために必要な事項について分析を行う。各地域の施策を参考に、活動に参加するために必要となることについて8項目の設定を行った。例えば「訪問による取り組みについての詳しい説明をしてくれる人

表-6 内面的性質の該当の有無による必要事項

内面的性質		I	II	III	IV
I 訪問による取り組みについての詳しい説明をしてくれる人がいること	該当	14.7%	35.3%	11.8%	23.5%
	非該当	8.7%	36.5%	14.4%	19.2%
II 一緒に参加しようと誘ってくれる人がいること	該当	22.9%	40.0%	14.3%	28.6%
III 取り組み先と自宅間の送迎をお願いできる人がいること	該当	11.1%	41.7%	16.7%	22.2%
IV 取り組みを行う人が増えて、いろんな人と交流できるようにすること	該当	14.3%	31.0%	21.4%	21.4%
V 取り組みを行うことの効果の説明や共に活動する仲間を作れるようにすること	該当	10.3%	34.5%	8.6%	12.1%
VI 自分の性格や健康状態などを受け入れてくれる人がいること	該当	11.9%	33.3%	11.9%	16.7%
VII 歩いて通える距離に活動施設があること	該当	9.4%	37.5%	14.6%	21.9%
VIII 活動施設の設備(テレビやエアコン,キッチンなど)が充実していること	該当	2.9%	38.2%	41.2%	8.8%
人と関わる意識の少なさ	非該当	16.3%	26.9%	47.1%	12.5%
諦めの強さ	該当	5.7%	37.1%	40.0%	11.4%
	非該当	15.5%	27.2%	47.6%	11.7%
自発的行動のなさ	該当	2.8%	36.1%	36.1%	8.3%
	非該当	16.7%	27.5%	49.0%	12.7%
頑固さの強さ	該当	11.9%	35.7%	35.7%	19.0%
	非該当	13.5%	27.1%	50.0%	8.3%
解決する意識の強さ	該当	12.1%	32.8%	44.8%	6.9%
	非該当	13.8%	27.5%	46.3%	15.0%
人見知りの強さ	該当	7.1%	28.6%	50.0%	7.1%
	非該当	15.6%	30.2%	43.8%	13.5%

1%有意 5%有意 10%有意

がいること」や「一緒に参加しようと誘ってくれる人がいること」などとしている。これらの設問について、「必要と感じる」「必要と感じない」の2択にて質問を行っている。表-6に、各内面的性質の該当・非該当別に、「必要と感じる」と回答された割合を示す。また、これらの回答された割合について、母比率の差の検定も行った。その結果、1%水準で有意差がみられたものを赤塗りに、5%水準で有意差がみられたものを青塗りに、10%水準で有意傾向がみられたものを緑塗りにしている。内面的性質の該当の有無で、必要となる施策に違いがみられる項目があることが示された。

次に、各種取り組みによる効果が、どの施策により達成されるかについて、内面的性質の該当の有無別に把握を行う。表-7に、それらの結果について示す。ここでは、各地域の施策を参考に「地域サロン」や「元気はつらつクラブ」「老人クラブ」など8つの施策について設定した。回答者には、これらの施策について、調査票の別紙にて、その内容の詳細について説明を行って

表-7 内面的性質の該当の有無による各活動により達成される効果

I	地域サロン	II	元気はつつクラブ	III	老人クラブ	IV	シルバー人材センター		
V	ふれあいの家	VI	生きがい農園	VII	地域交流室	VIII	ふれあい弁当		
内面的性質		元気に過ごせる日を増やすこと							
人と関わる	該当	20.0%	12.0%	16.0%	12.0%	16.0%	12.0%	4.0%	16.0%
意識の少なさ	非該当	20.9%	30.2%	14.0%	5.8%	10.5%	18.6%	17.4%	2.3%
諦めの強さ	該当	25.0%	21.4%	10.7%	7.1%	7.1%	3.6%	3.6%	3.6%
	非該当	19.3%	27.7%	12.0%	6.0%	13.3%	20.5%	18.1%	6.0%
自発的行動のなさ	該当	13.3%	10.0%	13.3%	10.0%	3.3%	16.7%	6.7%	10.0%
	非該当	23.5%	32.1%	14.8%	6.2%	14.8%	17.3%	17.3%	3.7%
頑固さの強さ	該当	17.6%	20.6%	8.8%	2.9%	5.9%	17.6%	14.7%	2.9%
	非該当	22.1%	28.6%	16.9%	9.1%	14.3%	16.9%	14.3%	6.5%
自身で解決する意識の強さ	該当	17.2%	23.4%	14.1%	9.4%	17.2%	20.3%	18.8%	4.7%
	非該当	25.5%	29.8%	14.9%	4.3%	4.3%	12.8%	8.5%	6.4%
人見知りの強さ	該当	17.1%	20.0%	17.1%	8.6%	5.7%	14.3%	11.4%	5.7%
	非該当	22.4%	28.9%	13.2%	6.6%	14.5%	18.4%	15.8%	5.3%
内面的性質		外出するの楽しみになりそうなこと							
人と関わる	該当	12.0%	12.0%	20.0%	4.0%	20.0%	16.0%	4.0%	16.0%
意識の少なさ	非該当	19.8%	23.3%	11.6%	3.5%	9.3%	16.3%	16.3%	2.3%
諦めの強さ	該当	17.9%	17.9%	21.4%	10.7%	3.6%	10.7%	7.1%	3.6%
	非該当	22.9%	25.3%	10.8%	2.4%	18.3%	10.8%	15.7%	6.0%
自発的行動のなさ	該当	6.7%	13.3%	16.7%	10.0%	3.3%	20.0%	6.7%	10.0%
	非該当	27.2%	27.2%	12.3%	2.5%	18.8%	7.4%	16.0%	3.7%
頑固さの強さ	該当	20.6%	23.5%	5.9%	0.0%	11.8%	5.9%	14.7%	2.9%
	非該当	22.1%	23.4%	16.9%	6.5%	15.6%	13.0%	13.0%	6.5%
自身で解決する意識の強さ	該当	25.0%	20.3%	14.1%	6.3%	17.5%	12.5%	17.2%	4.7%
	非該当	17.0%	27.7%	12.8%	2.1%	10.6%	8.5%	8.5%	6.4%
人見知りの強さ	該当	14.3%	17.1%	20.0%	5.7%	5.7%	14.3%	14.3%	5.7%
	非該当	25.0%	25.3%	10.5%	3.9%	18.4%	9.2%	13.2%	5.3%
内面的性質		新しい友人をつくること							
人と関わる	該当	12.0%	8.0%	16.0%	8.0%	8.0%	12.0%	4.0%	12.0%
意識の少なさ	非該当	19.8%	23.3%	11.6%	3.5%	9.3%	8.1%	15.1%	1.2%
諦めの強さ	該当	17.9%	17.9%	21.4%	10.7%	3.6%	7.1%	3.6%	3.6%
	非該当	22.9%	25.3%	10.8%	2.4%	18.3%	9.6%	15.7%	3.6%
自発的行動のなさ	該当	6.7%	10.0%	13.3%	10.0%	0.0%	16.7%	6.7%	6.7%
	非該当	22.2%	23.5%	12.3%	2.5%	12.3%	6.2%	14.8%	2.5%
頑固さの強さ	該当	20.6%	11.8%	2.9%	0.0%	2.9%	5.9%	14.7%	0.0%
	非該当	16.9%	23.4%	16.9%	6.5%	11.7%	10.4%	11.7%	5.2%
自身で解決する意識の強さ	該当	17.2%	17.2%	14.1%	6.3%	10.9%	10.9%	15.6%	3.1%
	非該当	19.1%	23.4%	10.6%	2.1%	6.4%	6.4%	8.5%	4.3%
人見知りの強さ	該当	14.3%	22.9%	20.0%	5.7%	0.0%	8.6%	11.4%	2.9%
	非該当	19.7%	18.4%	9.2%	3.9%	13.2%	9.2%	13.2%	3.9%
内面的性質		児童や若者と交流する機会を得ること							
人と関わる	該当	14.8%	7.4%	3.7%	0.0%	7.4%	14.8%	7.4%	14.8%
意識の少なさ	非該当	12.0%	13.0%	9.8%	2.2%	7.6%	7.6%	18.5%	0.0%
諦めの強さ	該当	13.3%	13.3%	10.0%	0.0%	0.0%	16.7%	10.0%	6.7%
	非該当	12.4%	11.2%	7.9%	2.2%	10.1%	6.7%	18.0%	2.2%
自発的行動のなさ	該当	13.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	6.7%	10.0%
	非該当	12.4%	13.5%	11.2%	2.2%	10.1%	6.7%	19.1%	1.1%
頑固さの強さ	該当	14.3%	5.7%	2.9%	0.0%	2.9%	2.9%	14.3%	0.0%
	非該当	11.9%	14.3%	10.7%	2.4%	9.5%	11.9%	16.7%	4.8%
自身で解決する意識の強さ	該当	10.1%	11.6%	7.2%	1.4%	10.1%	13.0%	18.8%	5.8%
	非該当	16.0%	12.0%	10.0%	2.0%	4.0%	4.0%	12.0%	0.0%
人見知りの強さ	該当	10.8%	16.2%	10.8%	2.7%	0.0%	8.1%	10.8%	0.0%
	非該当	13.4%	9.8%	7.3%	1.2%	11.0%	9.8%	18.3%	4.9%
内面的性質		自分の経験を誰かのために活かすこと							
人と関わる	該当	0.0%	3.7%	3.7%	7.4%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%
意識の少なさ	非該当	8.7%	12.0%	7.6%	5.4%	8.7%	5.4%	9.8%	3.3%
諦めの強さ	該当	0.0%	6.7%	3.3%	10.0%	3.3%	0.0%	10.0%	3.3%
	非該当	9.0%	11.2%	7.9%	4.5%	7.9%	5.6%	10.1%	2.2%
自発的行動のなさ	該当	0.0%	6.7%	6.7%	6.7%	3.3%	0.0%	6.7%	0.0%
	非該当	9.0%	11.2%	6.7%	5.6%	7.9%	5.6%	11.2%	3.4%
頑固さの強さ	該当	11.4%	5.7%	11.4%	0.0%	8.6%	5.7%	11.4%	0.0%
	非該当	4.8%	11.9%	4.8%	8.3%	6.0%	3.6%	9.5%	3.6%
自身で解決する意識の強さ	該当	7.2%	10.1%	5.8%	5.8%	8.7%	5.8%	11.6%	1.4%
	非該当	6.0%	10.0%	8.0%	6.0%	4.0%	2.0%	8.0%	4.0%
人見知りの強さ	該当	2.7%	5.4%	5.4%	2.7%	0.0%	2.7%	5.4%	0.0%
	非該当	8.5%	12.2%	7.3%	7.3%	9.8%	4.9%	12.2%	3.7%
内面的性質		人とのつながりを深めること							
人と関わる	該当	14.8%	7.4%	11.1%	7.4%	11.1%	11.1%	14.8%	7.4%
意識の少なさ	非該当	16.3%	26.1%	9.8%	3.3%	9.8%	9.8%	10.9%	1.1%
諦めの強さ	該当	16.7%	20.0%	10.0%	6.7%	3.3%	10.0%	10.0%	0.0%
	非該当	15.7%	22.5%	10.1%	3.4%	12.4%	10.1%	12.4%	3.4%
自発的行動のなさ	該当	6.7%	13.3%	10.0%	6.7%	3.3%	16.7%	3.3%	3.3%
	非該当	19.1%	24.7%	10.1%	3.4%	12.4%	7.9%	12.4%	2.2%
頑固さの強さ	該当	20.0%	11.4%	5.7%	0.0%	8.6%	5.7%	8.6%	0.0%
	非該当	14.3%	26.2%	11.9%	6.0%	10.7%	11.9%	13.1%	3.6%
自身で解決する意識の強さ	該当	17.4%	23.2%	11.6%	5.8%	14.5%	15.9%	15.9%	2.9%
	非該当	14.0%	20.0%	8.0%	2.0%	4.0%	2.0%	6.0%	2.0%
人見知りの強さ	該当	16.2%	18.9%	16.2%	0.0%	2.7%	10.8%	10.8%	0.0%
	非該当	15.9%	23.2%	7.3%	6.1%	13.4%	9.8%	12.2%	3.7%
内面的性質		生活リズムを作ること							
人と関わる	該当	11.1%	14.8%	14.8%	7.4%	11.1%	14.8%	3.7%	3.7%
意識の少なさ	非該当	16.3%	29.3%	8.7%	2.2%	7.6%	7.6%	7.6%	0.0%
諦めの強さ	該当	16.7%	23.3%	16.7%	6.7%	3.3%	10.0%	0.0%	0.0%
	非該当	14.6%	27.0%	7.9%	2.2%	10.1%	9.0%	9.0%	1.1%
自発的行動のなさ	該当	6.7%	16.7%	16.7%	6.7%	6.7%	13.3%	3.3%	0.0%
	非該当	18.0%	29.2%	7.9%	2.2%	9.0%	7.9%	7.9%	1.1%
頑固さの強さ	該当	11.4%	20.0%	5.7%	0.0%	8.6%	5.7%	8.6%	0.0%
	非該当	16.7%	28.6%	11.9%	4.8%	8.3%	10.7%	6.0%	1.2%
自身で解決する意識の強さ	該当	13.0%	30.4%	10.1%	5.8%	10.1%	13.0%	8.7%	1.4%
	非該当	18.0%	20.0%	10.0%	0.0%	6.0%	4.0%	4.0%	0.0%
人見知りの強さ	該当	10.8%	24.3%	10.8%	0.0%	0.0%	10.8%	8.1%	0.0%
	非該当	17.1%	26.8%	9.8%	4.9%	12.2%	8.5%	6.1%	1.2%
内面的性質		積極的に地域に関わっていくこと							
人と関わる	該当	10.7%	7.1%	14.3%	7.1%	7.1%	10.7%	3.6%	7.1%
意識の少なさ	非該当	9.9%	11.0%	7.7%	1.1%	3.3%	4.4%	9.9%	1.1%
諦めの強さ	該当	16.1%	6.5%	9.7%	6.5%	3.2%	9.7%	3.2%	0.0%
	非該当	8.0%	11.4%	9.1%	1.1%	4.5%	4.5%	10.2%	3.4%
自発的行動のなさ	該当	10.0%	6.7%	10.0%	6.7%	3.3%	10.0%	0.0%	3.3%
	非該当	10.1%	11.2%	9.0%	1.1%	4.5%	4.5%	11.2%	2.2%
頑固さの強さ	該当	8.3%	8.3%	11.1%	0.0%	0.0%	5.6%	8.3%	0.0%
	非該当	10.8%	10.8%	8.4%	3.6%	6.0%	6.0%	8.4%	3.6%
自身で解決する意識の強さ	該当	10.3%	11.8%	8.8%	4.4%	5.9%	8.8%	8.8%	2.9%
	非該当	9.8%	7.8%	9.8%	0.0%	2.0%	2.0%	7.8%	2.0%
人見知りの強さ	該当	7.9%	13.2%	7.9%	0.0%	0.0%	2.6%	5.3%	0.0%
	非該当	11.1%	8.6%	9.9%	3.7%	6.2%	7.4%	9.9%	3.7%
内面的性質		毎日を笑顔で過ごすこと							
人と関わる	該当	7.1%	14.3%	17.9%	7.1%	7.1%	10.7%	7.1%	10.7%
意識の少なさ	非該当	14.3%	20.9%	9.9%	3.3%	11.0%	11.0%	12.1%	4.0%
諦めの強さ	該当	16.1%	16.1%	16.1%	9.7%	3.2%	9.7%	9.7%	3.2%
	非該当	11.4%	20.5%	10.2%	2.3%	12.5%	11.4%	11.4%	2.3%
自発的行動のなさ	該当	6.7%	20.0%	13.3%	10.0%	3.3%	20.0%	10.0%	6.7%
	非該当	14.6%	19.1%	11.2%	2.2%	12.4%	7.9%	11.2%	1.1%
頑固さの強さ	該当	13.9%	19.4%	13.9%	0.0%	8.3%	5.6%	8.3%	0.0%
	非該当	12.0%	19.3%	10.8%	6.0%	10.8%	13.3%	12.0%	3.6%
自身で解決する意識の強さ	該当	11.8%	20.6%	11.8%	4.4%	13.2%	17.6%	11.8%	4.4%
	非該当	13.7%	17.6%	11.8%	3.9%	5.9%	2.0%	9.8%	0.0%
人見知りの強さ	該当	10.5%	21.1%	10.5%	5.3%	2.6%	15.8%	10.5%	0.0%
	非該当	13.6%	18.5%	12.3%	3.7%	13.6%	8.6%	11.1%	3.7%

1%有意 5%有意 10%有意

いる。

表-7では、例えば「元気に過ごせる日を増やすこと」が「元気はつらつクラブ」においてできそうと回答したのが、「人と関わる意識の少なさ」に該当している人の中では12.0%であるのに対し、該当していない人の中では30.2%であることを示している。ここで「人と関わる意識の少なさ」に該当している人と、該当していない人とで「できそう」と回答された割合に10%水準で有意差傾向がみられる。つまり、「人と関わる意識の少なさ」に該当している人は、該当していない人よりも、「元気はつらつクラブ」において、「元気に過ごせる日を増やすこと」ができそうと回答した割合が低いことが示されている。

以上のように、内面的性質の該当の有無で、取組みにより達成される効果認識が異なることが示された。

#### 4. おわりに

本研究では、高齢者の内面的性質に着目した。高齢者の内面的性質として、「人と関わる意識の弱さ」「諦めの強さ」「自発的行動の無さ」「頑固さの強さ」「人に頼れない意識の強さ」「人見知りの強さ」の6つで解釈されることが明らかとなった。また、各内面的性質の判定について、「友人との会話の頻度」や「近隣住民との会話の頻度」「歩行可能距離」「通院頻度」「買い物頻度」「趣味の頻度」「地域活動の頻度」「車の運転」「公共交通の利用」などが影響していることを示した。

高齢者の内面的性質が、活動希望の少なさに関係している共分散構造モデルの作成を行った。その結果、「諦めの強さ」が「人に頼れない意識の強さ」「自発的行動の無さ」「人と関わる意識の少なさ」へと繋がりが、活動への希望を低下させる構造を示している。

各種活動へ参加するために必要なことについて分析を行った。例えば「諦めの強さ」に該当している人は「訪問による取組みについての詳しい説明をしてくれる人がいること」を必要としており、「頑固さの強さ」に該当している人は「取組み先と自宅間の送迎をお願いできる人がいること」を必要としていることが明らかとなった。

各種施策により達成される効果に関する分析を行った。例えば、「人と関わる意識の少なさ」に該当して

いる人は、「ふれあい弁当」にて「元気に過ごせる日を増やすこと」が達成される人が多いことなどが示された。

以上のことから、高齢者の活動参加意向を向上させるためには、その内面的性質を考慮しなければならないことが明らかとなった。さらに、各種内面的性質の該当状況により、必要とする施策や、取組みにより達成される効果認識が異なることが示された。

#### 参考文献

- 1) 内閣府：平成 29 年高齢者の健康に関する調査結果，第 2 章 調査結果の概要，日常生活に関する事項，家族や友人との会話，2019.
- 2) 東京都長寿医療センター：高齢期の社会的孤立と閉じこもり傾向による死亡リスク，2018.
- 3) 第一生命経済研究所：NEWS 宅配便，65 歳以上の男女 600 名に聞いた「高齢者の外出の状況とその意向」，2004.
- 4) 内閣府：令和元年版高齢社会白書，第 1 章 高齢化の状況，第 3 節 高齢者の住宅と生活環境に関する意識，地域生活に関する状況，2020.
- 5) 全国老人クラブ連合会：老人クラブ実態調査報告書，2014.
- 6) 伊藤日向子，後藤春彦，山村崇：独居高齢者の「孤独感」と生活行動の関係，都市計画論文集，Vol. 54 No.3，pp. 1200-1207，2019.
- 7) 清水誠司，中井誉，原田健司，山村和也，岩崎義一：高齢者の地域社会との関わりと孤立感の相互関係分析，日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集，Vol. 15，pp. 101-104，2017.
- 8) 小林江里香，藤原佳典，深谷太郎，西真理子，斉藤雅茂：孤立高齢者におけるソーシャルサポートの利用可能性と心理的健康同居者の有無と性別による差，日本公衆衛生雑誌，Vol.58 No.6，pp.446-456，2011.
- 9) 山縣知紘，柴喜崇，上出直人，山科典子，河村晃依：高次生活機能の高い高齢者における「閉じこもり」に関連する心理的・社会的要因の検討，理学療法学，Vol.40 No.2，2013.
- 10) 鈴木雄，日野智，小島遼太郎：高齢者の外出行動における「慣れ」や「諦め」に関する研究，土木学会論文集 D3（土木計画学），Vol.75 No.5，pp.821-833，2019.